


ツキノワグマによる人身事故記録


事故の概要		タケノコ採りに向かう途中の山林内でクマの攻撃を受け、重傷。
発生日	年月日	令和2年5月27日
	時刻	13:20頃
	天候	雨
発生場所	住所	大仙市協和船沢
	山/里の別	山
	環境	現場の状況から、事故発生地点は国道から直線約170mの山林内の作業道上と推測。事故発生地点の作業道はカーブしており、作業道脇はササや草本が密生している（写真）。
被害者	年齢・性別	76歳・男性
	行動目的	タケノコ採り
	行動人数	1人
	クマ対策	不明（未聴取）
	被害状況	重傷（鼻骨および上下顎骨骨折、右前腕腱切断）
加害個体	頭数	1頭
	構成	単独
	その他	前掌幅9.5cm
事故の状況		被害者は国道から作業道に少し入った地点に車を止め、タケノコ採りのため山林に入った。単独・徒歩で奥に進んでいたところクマによる攻撃を受けた。自力で国道まで戻り、国道脇に駐車していた車に助けを求めた。
考察		作業道脇の植生が密生していたこと、作業道がカーブしていたことから見通しが効かず、出会い頭にクマと遭遇したと推測される。クマの足跡は事故発生地点より山側のみにあり、攻撃後は被害者を追いかけること無く山に戻っていることから、クマの防衛目的の攻撃であったと考えられる。出会い頭の遭遇を予防する措置をとっていれば避けられた可能性のある事故。
今後の事故防止に向けて		通常のクマとの遭遇防止策 ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする
その他		令和2年度2件目（2人目）の事故



ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		水口の確認のため山林に入ったところ、クマの攻撃を受け重傷。
発生日	年月日	令和2年6月21日
	時刻	17:00頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	北秋田市阿仁萱草
	山/里の別	山
	環境	<p>事故発生地点は国道下のカルバートを集落側から山林側（写真手前から奥）に抜けた地点。山林内はササやミズなどの下層植生が密生。</p> 
被害者	年齢・性別	74歳・男性
	行動目的	水口の確認
	行動人数	1人
	クマ対策	なし（普段山奥へ山菜採りに行く際は鈴をつけて行くが、今回は自宅から近いこともあり、つけていなかった）
	被害状況	重傷（右手首粉碎骨折、額と足に軽いひっかき傷）
加害個体	頭数	1頭
	構成	単独（成獣）
	その他	
事故の状況		被害者は単独・徒歩で水口の確認に向かい、カルバートをくぐった途端にクマと遭遇し攻撃を受けた。クマの攻撃を腕で防ぎつつ、腰に下げていたナタを抜いてクマを切りつけた。クマは山側に去り、被害者は自力で帰宅した。
考察		被害者の証言と、クマの攻撃が執拗でないことから、出会い頭の事故でありクマの防衛目的の攻撃と考えられる。出会い頭の遭遇を予防する措置をとっていただければ避けられた可能性のある事故。事故発生地点付近は国道の交通量が多く、人の気配にクマが気付くづらいと推測されるため、より大きな音や声を出すなど、一層の注意が必要である。
今後の事故防止に向けて		<p>通常のクマとの遭遇防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする
その他		令和2年度3件目（3人目）の事故

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		高山植物盗掘防止パトロール中に子連れのクマの攻撃を受け、軽傷。
発生日	年月日	令和2年7月13日
	時刻	9:25頃
	天候	霧雨、ガス
発生場所	住所	仙北市田沢湖 駒ヶ岳登山道
	山/里の別	山
	環境	<p>事故発生地点は駒ヶ岳八合目の登山道入口から直線で約310mの旧登山道上。</p> <p>沢の片側は砂地の急斜面、もう一方は濃いササやぶ。事故発生地点は沢がややカーブしている場所。</p> 
被害者	年齢・性別	A：69歳・男性、B：72歳・男性
	行動目的	高山植物盗掘防止パトロール
	行動人数	2人
	クマ対策	クマ鈴（鈴をザックにつけていたが、霧雨のためその上からザックカバーをかけており、鈴が鳴らない状態であった）
	被害状況	軽傷（A：両腕・左臀部に咬傷、B：左足・左耳・額に咬傷）
加害個体	頭数	1頭（攻撃をしたのは母グマのみ）
	構成	親子（当歳子1頭連れ）
	その他	
事故の状況		被害者2名が旧登山道のカーブを曲がったところ、10m弱ほどの距離に親子グマがいた。先頭のA氏は両腕で攻撃を防ぎながらストックでクマを叩いたところ、クマは後ろのB氏へ向かい、攻撃。その後クマはササやぶに逃げていった。この間に子グマは見えなくなっていた。
考察		沢筋でやや音が聞こえにくい状況であったこと、鈴が鳴っていなかったこと、ささやぶで見通しが悪かったことで、互いに気付かず至近距離で親子グマに遭遇したことが事故の原因であり、クマの攻撃の目的は子グマを守るためであったと考えられる。音を出して人間の存在をアピールしていれば避けられた可能性のある事故。
今後の事故防止に向けて		<p>通常のクマとの遭遇防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする
その他		令和2年度4件目（4人目・5人目）の事故

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		畑の草取り中に後ろからクマにぶつかられ、軽傷。	
発生日	年月日	令和2年7月16日	
	時刻	16:40頃	
	天候	くもり	
発生場所	住所	東成瀬村岩井川	
	山/里の別	里	
	環境	<p>事故発生地点は段々畑の端で、トマトハウスと豆の陰になっている箇所（写真、赤矢印）。近くの林分（写真手前側）からは直線で70mの地点で、その間は畑であり見通しが良い。この奥は2mほど低い位置にもう一枚の畑がある。</p>	
被害者	年齢・性別	90歳・女性	
	行動目的	畑の草取り	
	行動人数	1人	
	クマ対策	なし	
	被害状況	軽傷（左肩に爪によるケガのほか、一段下の畑に落下した際に背中を痛めた）	
加害個体	頭数	1頭	
	構成	単独	
	その他	前掌幅9.5cm	
事故の状況		被害者がしゃがんで（写真手前側を背にして）草取りをしていたところ、後ろからクマにぶつかられ、一段下の畑に転がり落ちた。クマはそのまま逃走した。	
考察		<p>明るい時間帯にクマが開けた畑に出てきた理由は不明だが、残っていた足跡からクマは小走りだったと推察され、山際で作業をしていた人間に驚いたか、大型のオスに追われるなどの何らかの理由があり、急いで移動していた可能性が考えられた。また、被害者の位置はトマトハウスと豆の陰であり、クマが被害者を認識したのはぶつかる直前だったと推測される。背後から攻撃したという形にはなかったが、クマの移動経路上に被害者が偶然居合わせたために起きた事故と推測され、クマが確信犯的に突進・攻撃したというものではなく、再発の危険性は低いと考えられる。一方で、偶然性が高く予防の難しかった事故と考えられる。</p>	
今後の事故防止に向けて		<p>予防しづらい事故ではあるが、人の気配があればクマが移動経路を変えたかもしれない。農作業中も腰に携帯ラジオをつけるなどして、人の居場所が分かるようにしておくことは有効である可能性が考えられる。</p>	
その他		令和2年度5件目（6人目）の事故	